リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容①】「Modificatin (変革)を目指した組織的な授業づくりと学級づくりの一体的展開」

↓理科の研究授業風景から

↓国語の研究授業風景から

◆概要◆

本校では、改訂生徒指導提要の授業における４視点に沿った授業改善を行ってきました。授業づくりの主な視点は次のとおりです。

【指導の個別化】授業内において、個々の得意・不得意、解き方や視点の違い、学力差を踏まえた具体的手だてを行う。（個別最適）／ＩＣＴを活用した一人ひとりの習熟に応じた支援（ICT活用）／自己肯定感を高めるための、個別の評価やほめ方、アドバイスの工夫（評価）

【学習の個性化】単元目標に沿いながら、個々の児童生徒の興味関心を特化させた授業（興味関心）／疑問に思ったことを、児童生徒自らが調べながら学習を進める授業（調べ学習）／提示した課題に沿って、学習方法を児童生徒自ら選択して進める授業（探究学習）／ＩＣＴを活用した、課題に対して児童生徒が自ら学び方を選び、学びをデザインする授業（ICT活用）

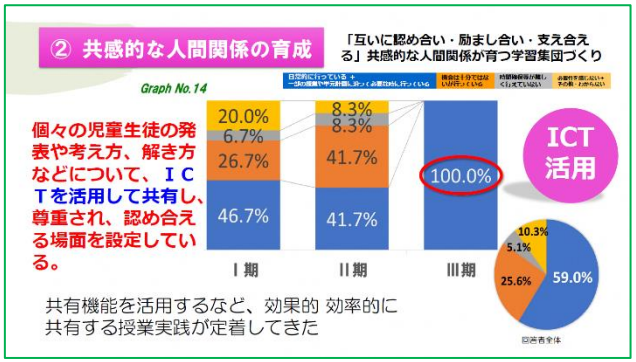
◆実践事例◆

年間を通して全員が公開授業を行えるよう計画を立て、事前に作成した「授業デザイン」をもとに異なる教科の教員が相互に学び合うとともに、ＩＣＴ活用のスキルも向上させてきました。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 自己存在感の感受
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

改訂生徒指導提要より



校区内小中学校教員対象に実施した4視点全ての具体項目の授業づくりアンケート項目の一例 （京丹後市の保幼小中一貫教育に基づく区分…Ⅰ期は小1～小4、Ⅱ期は小5～中1、Ⅲ期は中2～中3 ※R4.11実施）

↓社会の研究授業風景から

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容①】「Modificatin (変革)を目指した組織的な授業づくりと学級づくりの一体的展開」

◆実践事例◆

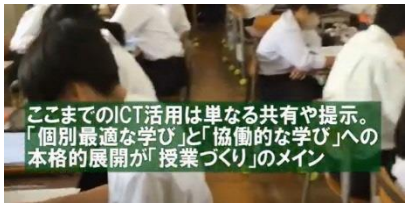
さらには、【共感的な人間関係の育成】自分の得意な部分、分かったことを発表し合う機会の設定（発表）／他者の発表や考え方、解き方について、お互いに関心を抱き合い評価しあう場面の設定（相互評価）／「教えあい」や「学びあい」の場面や話合い活動の場の設定（教えあい）／個々の児童生徒の発表や考え方、解き方などについて、ＩＣＴを活用して共有し、尊重され、認め合える場面を設定（ＩＣＴ活用）／【自己決定の場の提供】自分独自の意見や仮説をまとめる機会の設定（自己意見）／対話や討議の場を設定し、自分の考えを主張したり他者の意見と比較させて自分の考えを深める機会の設定（討議の場）などを、教科授業のみならず、学級経営の重要な視点に置いて実践を重ねてきました。

◆変容と成果◆

生徒の学習態度や意欲の向上と同時に、指導者側の授業に対する見方・考え方が劇的に変化してきました。ＩＣＴ活用による探究の方法を身に付けるだけでなく、生徒が課題を立て解決する授業づくりに関しての実践が進みました。共同編集やチャット、校外への発信などについて引き続いて研究していきます。

↑ 授業研究会だけでなく、学習支援加配が全授業者の実践を通信にして発信することにより、ICT活用だけでなく授業改善全体が急速に進みました。

↓ 春日井市の実践を参考に、単なる提示や意見収集に留まらず、互いのつまづきや思いも含めて共有しあい、習熟度に合わせた個別最適な学習へ移行させていく「協働的な学び」を重点研究（本校作成動画資料）



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容①】「付箋アプリやシンキングツール等を活用した協同作業や回答共有など、普段使いの実践」

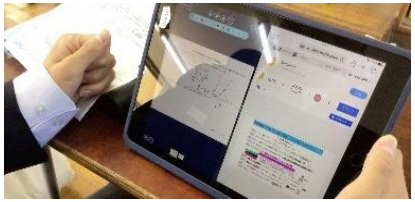
◆概要◆

これまで、黒板や班ごとのホワイトボードなどを駆使して取り組んできた「共有」のプロセス。場合によってはワークシートを使用し、教師がとりまとめて次時の授業に共有することもありました。ICTを活用することにより即時に意見や考えが共有され、再び個の思考へ転じ「深い学び」へと導くための効果的ツールとして、各教科で大変効果的です。

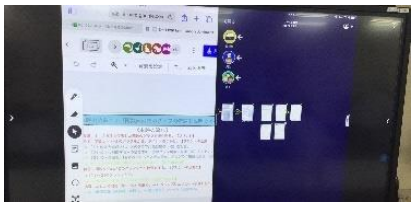
シンキングツールを用いた深い学び（国語）

◆実践事例◆

シンキングツールやデジタルホワイトボードソフト、アンケート機能を用いて、即時に集団に対してフィードバックし、次の授業展開へ。これまで付箋や模造紙、班ごとのホワイトボードを用いることなく共有できるとともに、自分の考えや思いを抵抗なく伝えるメリットもあります。

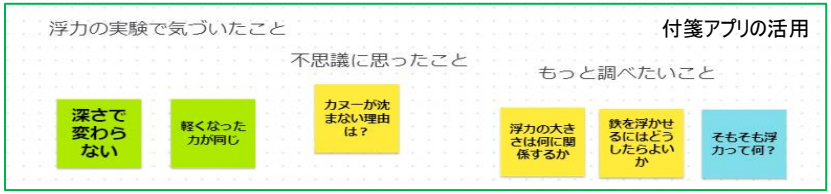


↑↓複数画面・アプリの併用（演習とヒントの提示）

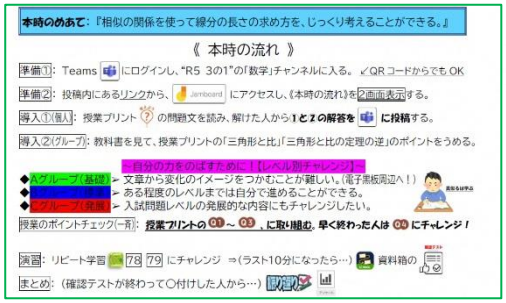


◆生徒の変容と成果◆

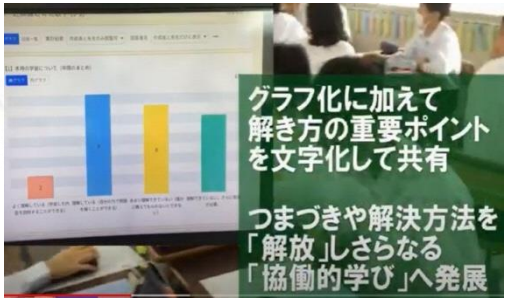
一部の生徒の発言のみで授業が進むこともなく、抵抗感を払拭できた生徒も数多くいます。これらを授業の特別な山場で使用するのではなく、「普段使い」として常用することができれば、実際の発言や発表と組み合わせ、多面的な授業展開が可能となります。



↑↓教科書や資料とアプリの併用



← デジタルホワイトボードソフトは共有作業だけではなく、めあてを提示し、複数画面で常時提示することに活用も可能



「できないのは自分だけじゃない！」みんなの苦手度を共有し、友だちのアドバイスを受けて自分に合った問題に挑戦！

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容③】「電子データやアプリケーションを活用した家庭学習の電子化の実践」

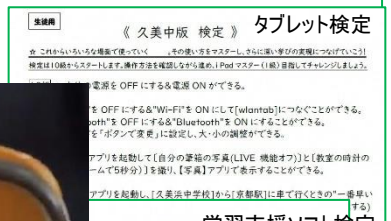
◆概要◆

本校は、平成31年度から市教育委員会指定のICT研究を２か年、令和３年度からは京都府教育委員会指定のCBT研究指定校を受けたこともあり、GIGAスクール構想以前から校区小中学校でタブレットの運用を開始していました。令和２年の緊急事態宣言の発出、そして１人１台タブレットが供与された際には、即時に校内環境を整え、マニュアルの策定、運用ルールの指導を終え運用を開始しました。

◆実践事例◆

その際、いち早く操作スキルを向上させ、授業への本格導入を実現するために、『全校タブレット検定』を実施し、楽しみながら、教えあいながら操作や活用に慣れるプロセスを踏むことで、円滑かつ早期の本格導入が実現しました。

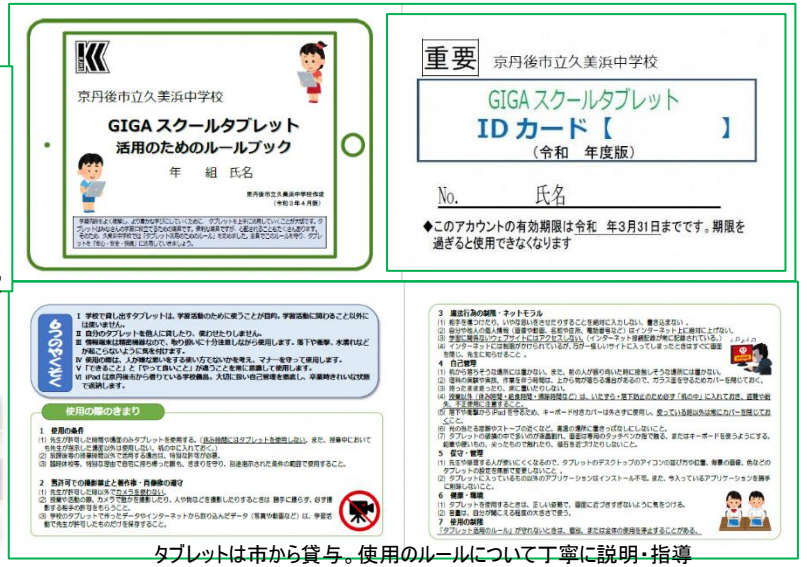
オンラインやデータのやり取りが可能なアプリと授業支援ソフトを併用してことにより、全校の生徒が、学校以外の場所でも自力で学習に取り組める、あるいは、いつでも学校と繋がれる環境が整いました。



タブレット検定

学習支援ソフト検定

誰でも一人で解決できるマニュアルを配付



タブレットは市から貸与。使用のルールについて丁寧に説明・指導

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容③】「電子データやアプリケーションを活用した家庭学習の電子化の実践」

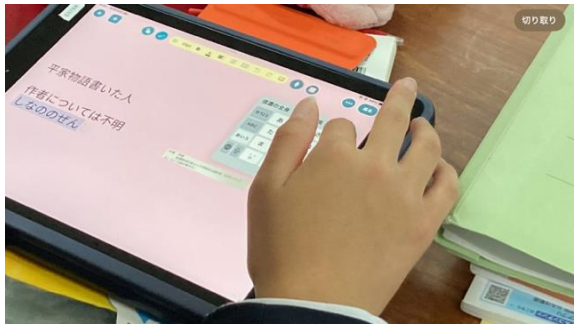
◆実践事例◆

コロナ禍、アフターコロナをとおして、家庭学習の電子化は飛躍的に進み、全校生徒が様々な教科や活動で活用しています。

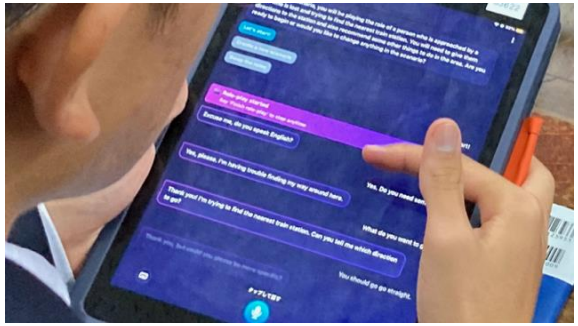
- 課題をタブレットへ配信。提出もタブレットで。問題集や紙媒体などの課題と組み合わせ、家庭学習の質を向上しています。また、教務部が各教科の課題を把握し、バランスを取りながら運用しています。
- 京丹後市が独自に導入したAIを搭載した英語力向上アプリは、市内全中学校の全生徒のタブレットに搭載されています。中でも今年度から、中学２・３年生対象に「生成AI」を活用したモデルにバージョンアップされ、タブレットさえあればどこでも、ＡＩがネイティブの先生のように発音の癖を特定し矯正する「個別指導」が可能になるだけでなく、自分のレベルに合わせて無限に生成ＡＩとの英会話のレッスンを続けることができるようになりました。授業での活用はもちろんのこと、その活動を生かして、自宅で一人でも取り組める効果的な家庭学習のツールとなっています。
- その他、授業のオンライン放映やドリルソフトなど、「学びの場を保障」する様々な家庭学習ツールを駆使して、きめの細かい指導を展開しています。。

◆生徒の変容と成果◆

未だ終息しないコロナ、インフルエンザ等の欠席者への学びの保障、また、本校の課題でもある長期欠席者への学習支援には欠かせないツールとなっています。



宿題提出もタブレットから



日本で初めて本市全中学校に導入された英語力向上アプリ

学校での協働的な活動はICT上でも活発に

授業と家庭学習の連結により家庭学習の質の向上を目指す

今もなお終息しない感染症にはオンライン配信は必須

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容④】「ICTを活用した業務改善、生徒の安心安全を保障する取組」

◆概要◆

新型コロナウイルス感染症は、私たちに様々な試練を課し、どの学校においても危機に対応できる業務改善が喫緊の課題でありました。日々変化する状況の中で、急遽学校の方針を転換せざるを得ない日々…、健康観察や家庭連絡など…、まさに学校におけるICT導入があったからこそこれまで切り抜けてこられたのではないでしょうか。

◆実践事例◆

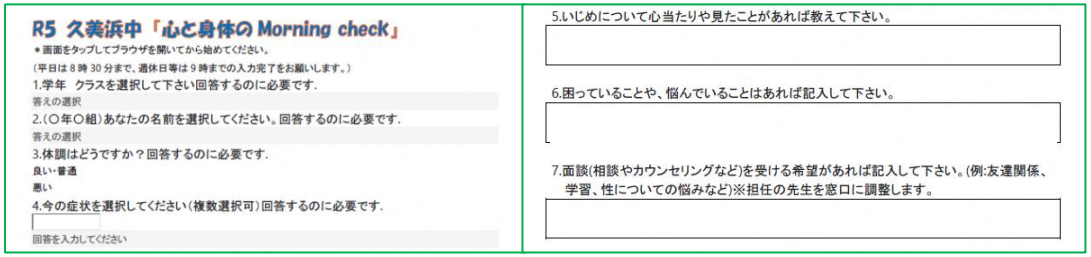
本校では、当時から職員・保護者・生徒との緊急連絡体制を完備し、あらゆるケースにおいても対応できるマニュアルを完備するとともに、保護者欠席連絡アプリ、いじめやLGBTQに関することなどを含む、心因性の悩みも受け入れられる「心と身体のMorning check」の運用を開始。セーフティネットとしての機能ももたせました。

◆生徒の変容と成果◆

アフターコロナの全国的な課題は長期欠席生徒の増加。本校においても相変わらず最優先の課題となっています。子どもの悩みやSOSを多面的にキャッチして、未然防止、早期解決の手を打つことが求められています。相談窓口の複数常時開設、いじめアンケート、カウンセラー等の配置に併せて、ICTを駆使した様々な回線の開設こそ、発達支持的生徒指導の出発点だと思います。

欠席連絡アプリにモニタを増設して全職員が確認できる状況にして情報共有

教員側（ブラウザの管理画面を使用）	保護者側（専用アプリを登録して使用）
【機能１】欠席連絡と確認機能	
◆教員用タブレットで欠席連絡等を確認	◆「保護者」から朝の連絡・遅刻・早退連絡を行う（それ以外の機能はなし） ◆コロナ関連の連絡内容に留意
【機能２】学校からの一斉送信機能	
◆緊急連絡の一斉送信や学校発出文書等の添付ファイル（画像・PDF 等 3M まで）	◆通知機能の ON にすれば通知が可能 ・ただし現時点では学校側での既読確



R5 久美浜中「心と身体の Morning check」

＊画面をタップしてブラウザを開いてから始めてください。

（平日は８時 30 分まで、週休日等は９時までの入力完了をお願いします。）

1.学年　クラスを選択して下さい回答するのに必要です.

答えの選択

2.(〇年〇組)あなたの名前を選択してください。回答するのに必要です.

答えの選択

3.体調はどうですか？回答するのに必要です.

良い・普通

悪い

4.今の症状を選択してください(複数選択可)回答するのに必要です.

回答を入力してください

5.いじめについて心当たりや見たことがあれば教えて下さい。

6.困っていることや、悩んでいることはあれば記入して下さい。

7.面談(相談やカウンセリングなど)を受ける希望があれば記入して下さい。(例:友達関係、学習、性についての悩みなど)※担任の先生を窓口に調整します。

アフターコロナでも継続している「心と身体のMorning check」 朝学活開始までに各自が入力する

【要保存】

新型コロナウイルス感染症等に係る臨時休業時における対応チャート

対応レベル		説　明	電話連絡	生徒用学級連絡網	PTAメールによる保護者への連絡	家庭訪問	HP掲載	保護者宛て文書	Teams	Forms	ロイロノート	その他の方法	ネット生徒・保護者のへの対応	
（学級閉鎖やインフルエンザに伴う休業等を含む）感染症による臨時休業	レベル1	生徒への連絡（第１報）	・次日からの自宅待機の指示 ・今後の連絡方法について　等	◎			Post in	○ PW						・対応一覧 ・HP掲 ・PW
		保護者への連絡・配付物（原則非接触）	・休業連絡、今後の連絡方法、生徒活動自粛等動の学校文書			◎		◎ 状況に応じて電話は非常時のみ可能	◎					・HP掲 ・プラ る発言 ・検査
	レベル2	健康観察・検温報告（アンケート送信）	・朝の検温報告、体調把握（生徒→学校）			○ 開始予定		BC電話版 GRIT一覧表	◎A家庭 Formsによる送信			・HP又はCFormsGRコード掲載BC家庭 ・必要に応じて個別配慮給		・体温 トで ・検査
		健康観察・SHR（Teamsによる対面式）	・生徒との双方向による健康確認、情報交換、見通し、連絡事項等（SHR内容）	○ BC		(○) B			◎ A			・BC家庭は個別にフォローアップ ・事態が深刻化している市教委と連携し必要時への適切な対応対応		・発熱 スケジ ・小中
		生徒への配付物（課題等を含む）	・各教科の家庭学習課題の配布				Post in	◎ PW	(○)		◎			・ロイ ・当面
	レベル3	課題等の回収	・学習課題の提出						(○)		◎	登校日回収等		・当面
	レベル4	オンラインによる一斉指示（授業形式）	・ブランA家庭のみ対象					○ 要出席簿	◎		○ 要出席簿		・重要事項は個別連絡又はPDFで配信	・教科 ・教科（学級閉鎖等）
	その他													

発生フェーズにごとの教職員の対応と連絡方法について策定

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「関係機関や教育行政との共同研究推進の重要性」

「協働的な学び」を研究テーマに据えた実践授業を動画やオンデマンドとして記録・発信

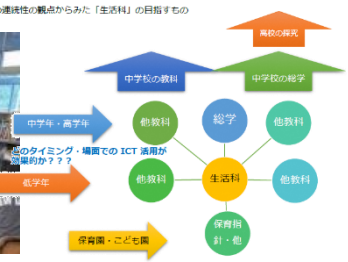
GIGAスクール構想実施に先立って京丹後市教育委員会から依頼を受け、市内学校向けに作成した実践啓発動画

◆概要◆

結論から先に触れると、行政支援なしで学校独自にDXを教育現場に取り入れることは不可能であります。それは予算的な面だけでなく、教育施策の方針を明確したうえで、現場に寄り添った支援がどれだけできるかが波及・推進の必須条件となります。とりわけ授業改善における研修等の支援、ミドルリーダーの育成、専門的なICTに係る支援体制は不可欠です。今回の研究では、本校の研究実践だけでなく、行政の支援の在り方についても意識して進めました。

◆成果◆

本校しての研究を単体で進めるのではなく、教育行政はもちろんのこと、地元研究組織、京都府の教育研修施設、他校種を含む近隣の学校とネットワークを構築し、京都府北部地域が一体となって協働し研究を進めていきました。各種研修会、相互参観、共同研究など、これらにより研究の幅は広がり、同時に研究成果の波及も進めることが可能となり、大きな効果を得ることができました。



同じ指定校である校区小学校との共同研究を進め、保幼小と生活科とのつながり、生活科と「総合的な学習の時間」とのつながり、生活科と中学校の各教科とのつながりについて、ICT活用をとおした連続性・系統性のあるカリキュラムの構築を研究

本校の校内研修会には、客員アドバイザー、府指導主事、市教委指導主事、府研究機関指導主事兼研究主事、近隣高等学校教員、市内小中学校教員など多数の参加者を加えて研究協議を実施

市内教育研究会においても、学校におけるDXについての研究を開始し、京都府北部地域の強固な研究ネットワークを構築、共同研究を重ねている。

国や地方公共自治体を含む行政のスタンスは、教育におけるDX普及の大きなカギとなる。費用対効果検証に終始せず、子どもの望ましい育ちと学びに寄り添った現場との連携が不可欠

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「オンラインやオンデマンド等を活用した校区学校園所との連携」

◆概要◆

本校が所属する京都府北部の京丹後市では、保幼小中一貫教育構想のもと、市内６町がそれぞれ分離型一貫教育校として「学園」を形成し教育活動を進めています。当地域は人口の少ない広域にわたる地方部のため、同じ学園内においても対面の共同した活動が難しく、コロナ禍に関わらずＩＣＴの活用は不可欠のものとなっています。加えて言えば、ＤＸの推進により学園のまとまりはより強固なものとなり、一方で学校園所の独自性や強みを生かした教育・保育の推進も充実していくという、予想を超えるメリットも明確になってきました。

体育館と別会場を結んだコロナ禍の卒業証書授与式

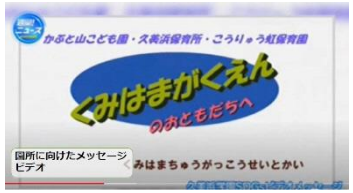
◆実践事例◆

コロナ禍におけるオンライン対応はもちろんのこと、効率的な児童会・生徒会の合同会議の実施、学園内の園所学校教職員のためのオンライン研修会の実施などは、移動時間を削減したり、常時保育を続ける園所職員にも研修の機会を提供するなど、対面型にはない有効性も検証することができました。

また、オンデマンドや動画配信などは、教員や児童生徒のスキル向上により、対面では得られない情報量や表現力も魅力となり、教師のみならず、子ども同士のネットワークの構築と活性化も実現しています。

久美浜学園児童会・生徒会合同定例会議（1中学校3小学校）

←
コロナ禍における、校区内1中学校、3小学校、3園所合同のオンライン夏季全体研修会
（双方向による研究協議・交流を含めた研修会を開催）



SDGSの取組の協力を園所に発信

中学校入学に当たっての質問に回答

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「総合的な学習の時間と教科の一体的展開と遠隔授業等による小中高の連携強化」

本校と地元高等学校との遠隔授業での、「総合的な学習の時間」と「総合的な探求の時間」の合同授業及び交流行事

◆概要◆

本校では、保幼小との連携はもちろんのこと、近隣の高等学校との連携も「一貫教育」として位置づけ、これまでよりさらに踏み込んだ連携事業を実施しています。「おらが町の高校」をより身近に感じ、成長した先輩の考えに触れることにより、本校生徒一人ひとりのキャリアを温かく育んでいます。貴重な地域資源としての地元高校とタッグを組んで、ＩＣＴを活用しリアルな体験とバーチャルな体験の両輪で強力に進めています。

◆実践事例◆

- **『自己の在り方生き方を見つめ、明日からのキャリアを切り拓こう！』**「総合的な学習の時間（中学校）」と「総合的な探究の時間（高等学校）」の遠隔による合同特別授業
  ⇒ＩＣＴ環境を活用し、中学３年生が、高等学校における「総合的な探究の時間」の学習内容を知り、次なる目標をもって日頃の学習を進めていくための動機づけの機会と捉えて開催（中学３年生対象）
- **『栽培から食育へ』**農業専門の高校教員による遠隔特別講座
  ⇒中学校技術科における「栽培領域」への関心を高めつつ、久美浜中学校が展開しているSDGsの取組や食育に係る取組を、より深化していくための機会として開催（中学生全員対象）

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

【取組内容⑤】「総合的な学習の時間と教科の一体的展開と遠隔授業等による小中高の連携強化」

◆実践事例◆

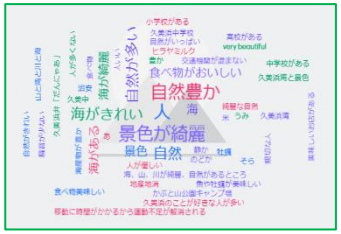
本校では、学校教育目標を具現化させる指導の重点として、「生徒のキャリア形成を目指し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ横断的取組の展開各領域・教科の取組を、キャリア形成の視点で一体的に展開し、キャリア教育に掲げられている目標を目指しながら、ふるさとや自分を見つめ、将来への展望をもてる『生き方を学ぶ教育』を推進する。」としています。ＩＣＴ・ＤＸの効果的・積極的活動と、教科授業を含めて、地域人材を計画的・系統的に活用し、直接体験を大切にした教育を一体的に展開していきます。

年間通した生徒のキャリア形成に資する計画の大きな節目として、『先輩たちの生き方・考え方に学ぶ』「くみちゅう　キャリアフェスティバル　2023」を開催し、様々な世代の思いを出し合うパネルディスカッションの場に、高校生にも参加を要請し、ふるさとや仲間と繋がることの大切さ、誰もがウェルビーイングを追求できる世の中づくりについて考える機会としました。

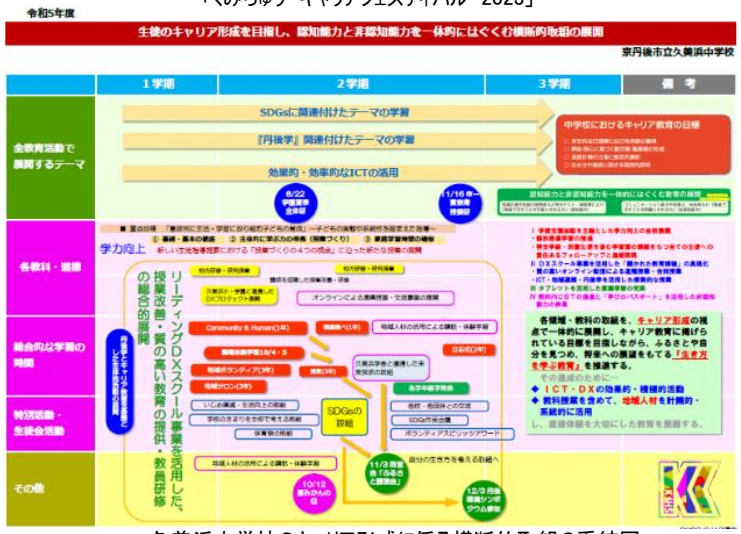
本事業にも本校のDXのノウハウを駆使し、関東在住の本校卒業生である社会人とオンラインで結び、パネルディスカッションに参加していただいたり、参加者全員が持っているタブレットからスクリーンのＱＲコードを読み取り、瞬時に参加者の意見を集約し、ワードクラウドとして提示された意見をさらに深めていくなど、全員参加型のセッションとなり、大成功で終えることができました。

◆生徒の変容と成果◆

全校生徒がタブレットを普段使いにしている本校としては日常の風景でしたが、リアルに行われている討論会とICTを組み合わせた企画・進行は新鮮に感じたようでした。ICT機器を駆使しつつ、親しみのある高校生の生の話をストレートに受け止められたことは、今後の彼らのキャリア形成にとって非常にプラスになると感じます。



「くみちゅう　キャリアフェスティバル　2023」



久美浜中学校のキャリア形成に係る横断的取組の系統図